

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 北九州市立二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

- (2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

北九州市立二島 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

| | | 国語 A | 国語 B | 数学 A | 数学 B | 理科 |
|-----------------------|----|------|------|------|------|------|
| 平成25年度 | 本市 | 74.7 | 65.0 | 60.3 | 38.2 | |
| | 全国 | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 | |
| 平成26年度 (理科：平成24年度) | 本市 | 77.2 | 47.6 | 62.4 | 54.4 | 48.6 |
| | 全国 | 79.4 | 47.6 | 67.4 | 59.8 | 51.0 |
| 平成27年度 | 本市 | 73.9 | 63.1 | 61.6 | 37.7 | 50.0 |
| | 全国 | 75.8 | 65.8 | 64.4 | 41.6 | 53.0 |

② 学力調査結果の分析

| | | | |
|-----|-------------|--|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | 全体的に、全国平均を下回っている。話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の各領域ともに、全国平均から同程度ずつの下回り方であった。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに関する設問の多くは、全国平均を上回っていた。 | |
| | 努力が必要な問題 | 単語の品詞を類別する設問に関して、正答率が低かった。 | |

| | | | |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。 ・特に、根拠を明確にして書くことに関する問題に課題がある。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 効果的な資料を作成し、活用して話すことに関する設問は比較的、無解答率が低かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | 自分の考えを具体的に書くことに関する問題は、無解答率が高く、正答率も低かった。 | |

| | | | |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 数学A | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均正答率を下回っており、資料の活用に関する問題が特に無解答率が高く、誤答も多かった。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 図形に関する問題は、他に比べると正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | 資料を正確に読み取り、そこから指示されたことを求める問題は正答率が低かった。 | |

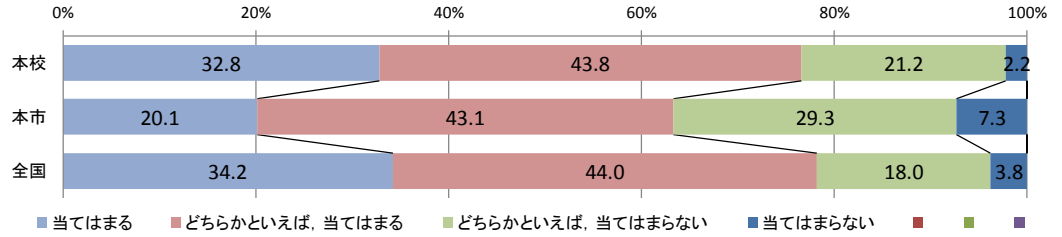
| | | | |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 数学B | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均正答率を下回っており、全体的に無解答率が高く、正答率も低かった。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 数と式、図形、資料の活用の領域に比べ、関数に関する設問は正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | 与えられた情報から、資料の傾向などを捉え、解釈し説明したり的確に処理する設問の無解答率が高かった。 | |

| | | | |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。 ・化学的領域は他の領域に比べ、平均正答率が高かった。 ・特に、物理的領域に関する問題に課題がある。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取る問題については、全国の正答率を上回っていた。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・オームの法則を使って、抵抗の値を求める設問は、無解答率が高く、正答率も低かった。 | |

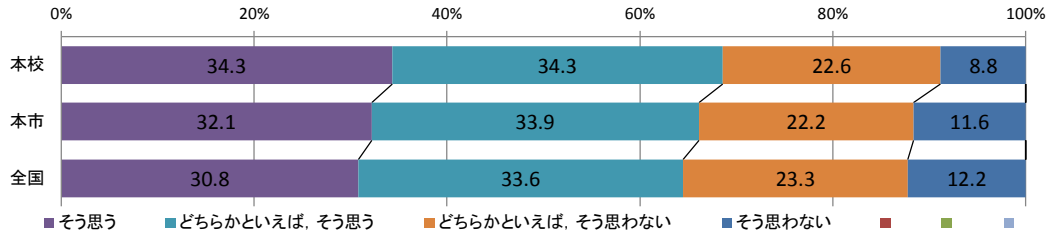
③ 学校での学習状況に関する調査結果

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

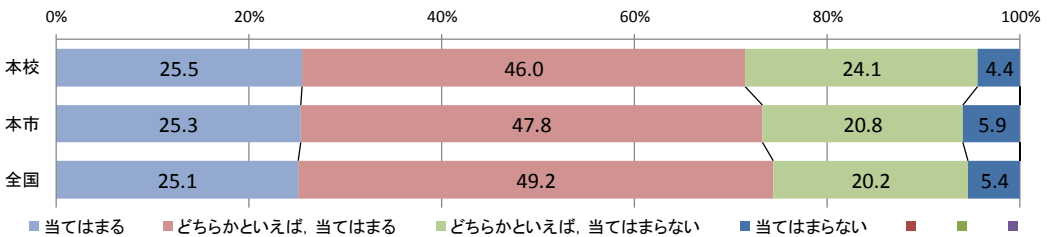
| |
|---------------------------------|
| 39 |
| 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。 |



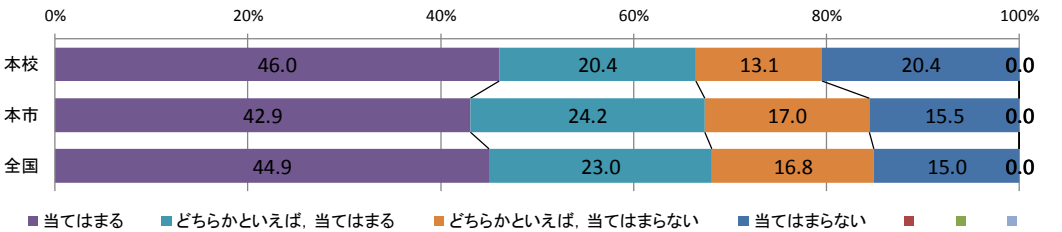
| |
|---|
| 45 |
| 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。 |



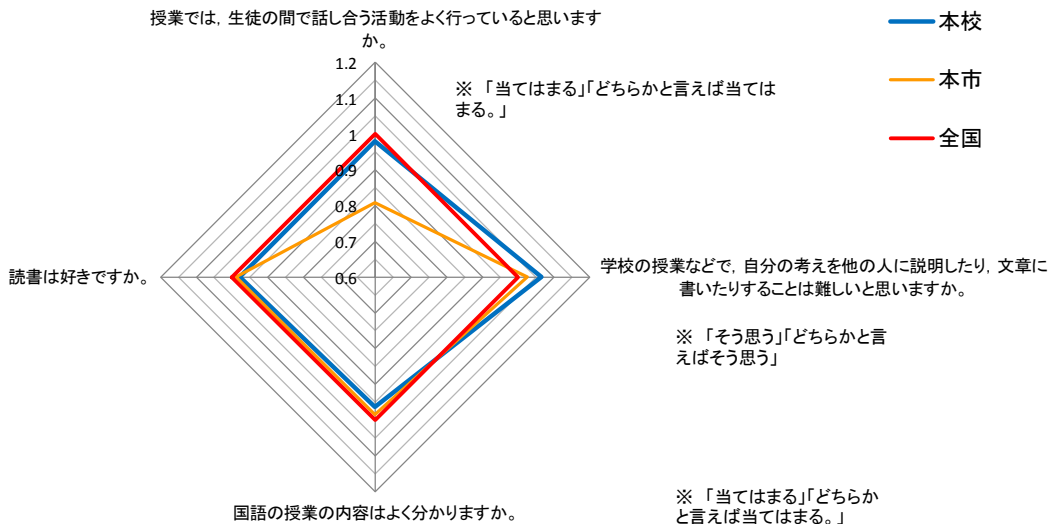
| |
|--------------------|
| 50 |
| 国語の授業の内容はよく分かりますか。 |



| |
|-----------|
| 51 |
| 読書は好きですか。 |



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

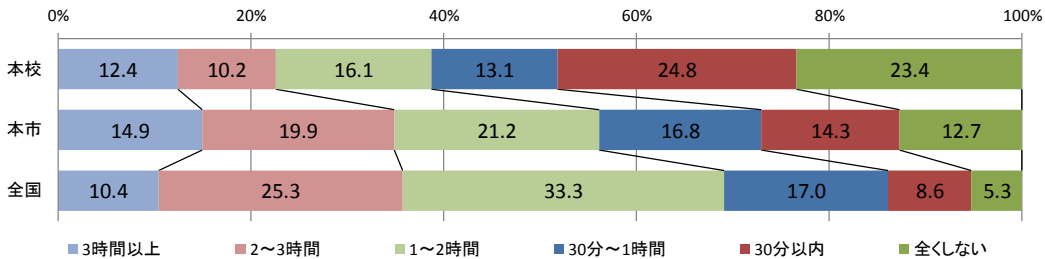
- ・話し合う活動は全国平均に近づいてきており、全体的に生徒同士で交流しながら取り組んでいる成果が出てきている。
- ・自分で物事を判断し、自らの考えを整理して友達に伝えたり、記述してまとめたりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。授業の終わりに振り返りを入れたり、書く活動を取り入れたりする必要がある。
- ・国語の授業に対する理解力や読書を好む生徒はほぼ全国平均と変わらない。他の教科でも、更に言語活動を充実させることで、生徒の言葉の力を伸ばしていきたい。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

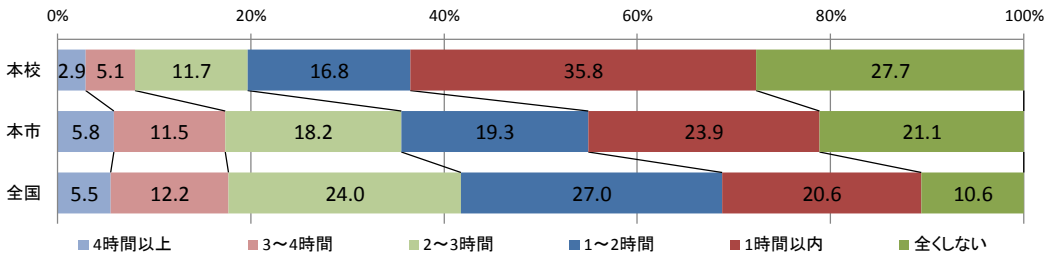
13

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



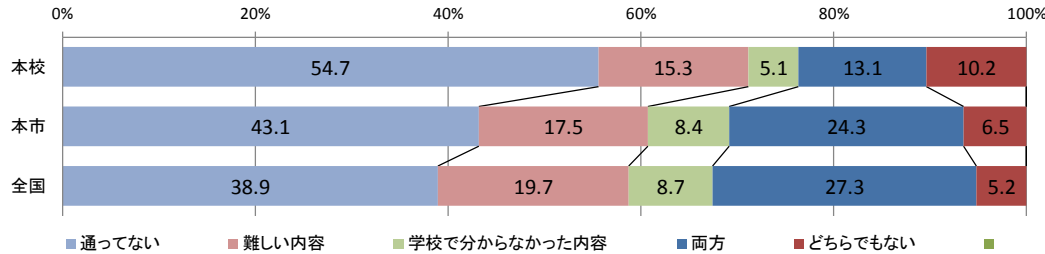
14

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



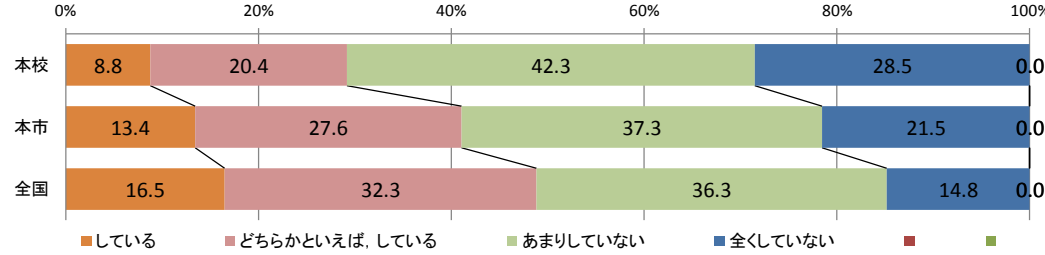
15

学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含みます。)で勉強をしていますか。

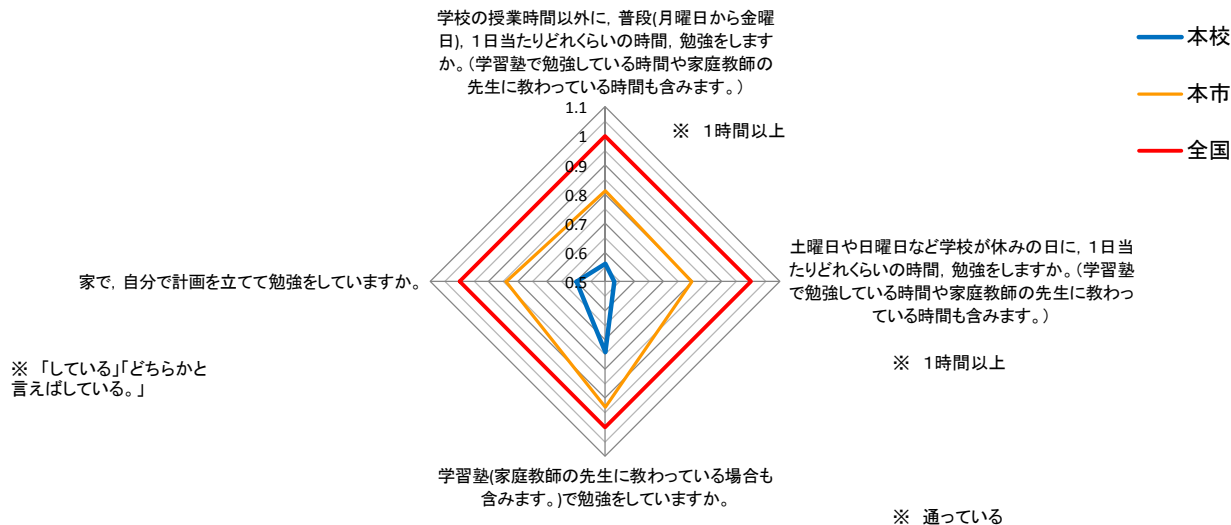


20

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



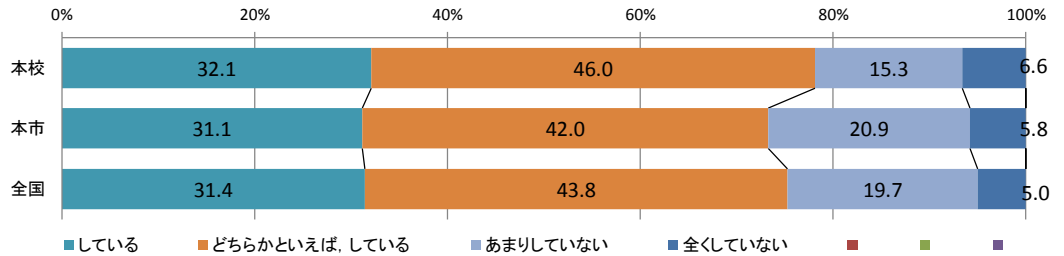
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1時間以上学校の授業以外で学習をしている生徒の割合が低く課題が見られる。また、家庭学習の絶対量が少なく、全校で時間のめやす(1年生80分、2年生90分、3年生100分)を示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

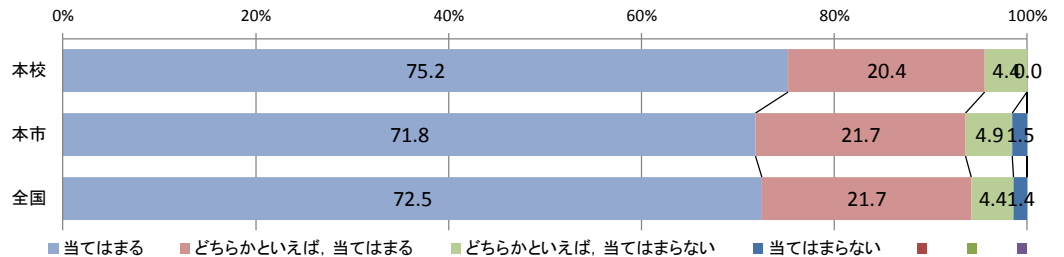
・家庭学習チャレンジハンドブックなどを活用して、自分で計画し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる生徒の育成をすべきである。

④ 生活習慣等に関する調査結果

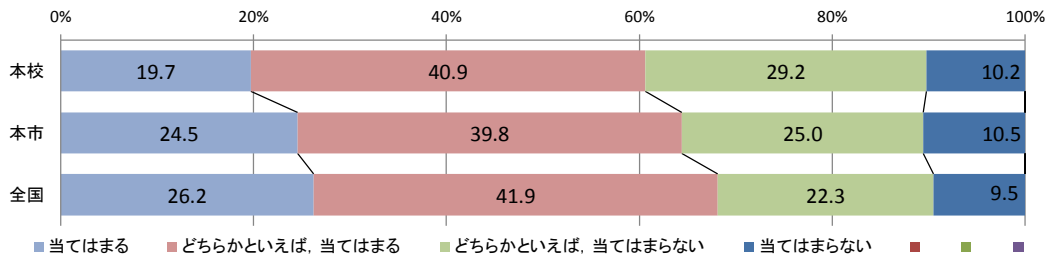
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



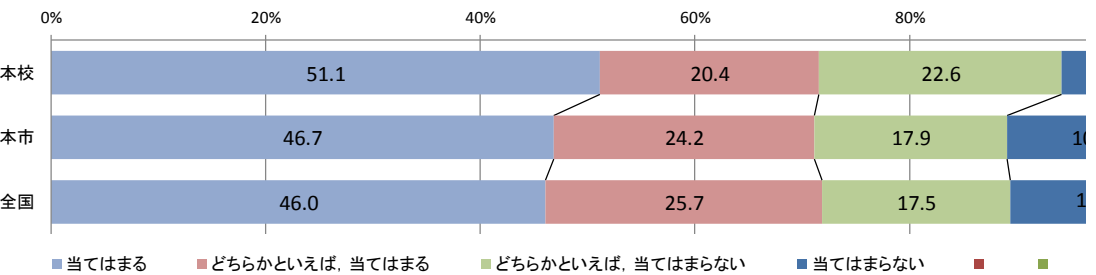
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



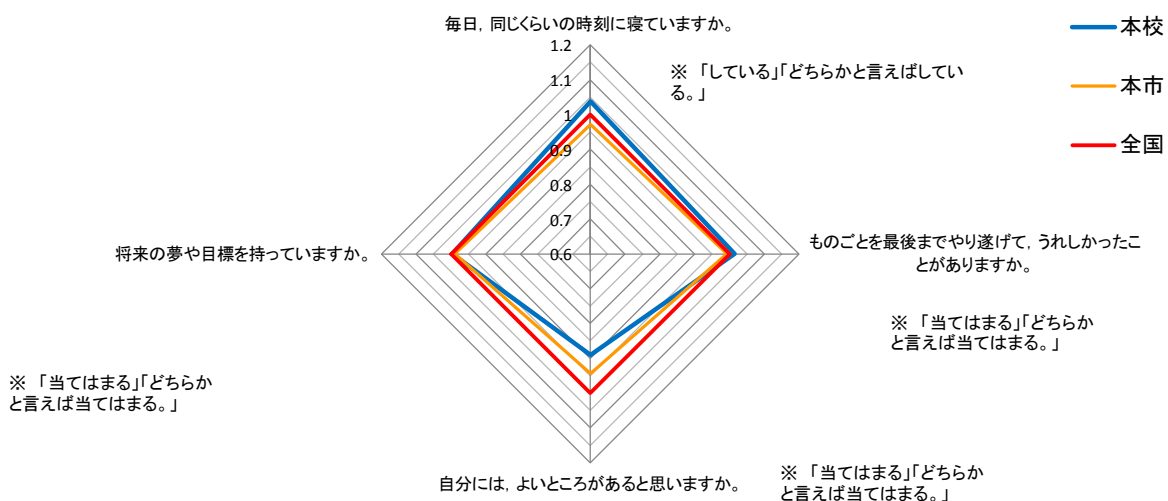
6
自分には、よいところがあると思いますか。



9
将来の夢や目標を持っていますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・就寝時間を守るなど規則正しい生活習慣が定着している生徒が多い。また、物事を最後までやり遂げ、成就感を味わっている生徒の割合も高い。更に、将来の夢や希望をもっている生徒は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

・一方、自分にはよいところがあると感じている生徒の割合は低い。自己肯定感を向上できるようにするための取り組みを工夫する必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 指導力の向上を目指して
 - ・全教員が年間1回授業を公開し、参観・協議する。
 - ・めあてとまとめの提示の徹底
 - ・生徒が主体的に活動する場面を作り、話し合い活動・発表活動をするなどして、言葉の力を高める。
 - ・評価規準を明確にして、生徒の状況を細かく確認する。
- ◎ 基礎・基本の定着
 - ・朝自習や帰りの会、放課後等、学力向上のための特設時間を設定する。
- ◎ 書くことの習慣化
 - ・ノート指導を行い、質の高いノートを紹介したり、賞賛や励ましのコメントを記入したりする。
 - ・毎時間の授業のまとめや学校行事の後、必ず感想や学んだことを書いて整理する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 家庭学習の取組の強化
 - ・「宿題記録シート」を活用し、各教科で出される宿題の量や内容を生徒・教師共に把握・確認し、宿題の提出の徹底を図る。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックを活用しながら、家庭学習について指導する。また、家庭にも通信等を使って、理解と協力を得る。
- ◎ テストや学力検査から見られる課題を全教員・保護者に周知し、理解と協力を得る。
 - ・学校通信・HP・PTA理事会・家庭教育学級・学年懇談会等で保護者に説明し、家庭との連携を図る。
 - ・小中連携担当を中心に学習の仕方の連携を図る。
- ◎ 本校生徒会作成の「ケータイ・スマホ使用の5か条」の周知を図り、生徒会活動の一貫として生活習慣の改善に取り組む。